

慈雲

5号

2007/08

真宗大谷派 慈雲山 瑞蓮寺

慈雲会

〒604-8214

京都市中京区新町通蛸薬師下る

百足屋町375番地

TEL/FAX (075)221-4616

zui renji@nifty.com

SinsyuuOotaniha

JiunzanZui renji

Jiunkai

一時佛在

王舎城耆

闍崛山中

【表紙の言葉】

「一時仏、在王舎城」
いちじふつ ざいおうしやじょう

ぎしゃくつせんじゆ

耆闍崛山中「ある時お
釈迦様は王舎城の耆闍
崛山の中においでにな
つて」という言葉で經典
は始まります。

どの經典も時と場所、
説き手と聞き手がそろ
つて初めて説きだされ
ます。

それはなかなか得がた
いことであり、どれひと
つ欠けても經典は成り
立ちません。

この言葉に、すべての
条件が整って『觀經』が
説きだされたことを思
うのであります。

【観經に学ぶ】その三

今月は經典の初めにある「一時」^{いちじ}について考えてみたいと思います。一般的には絵本の冒頭に「むかしむかしあるところに」というのと同様、特定の時間を指しているのではなく単に「ある時」と説明されます。ところが中国の善導大師はこの「一時」に深い意味を見出しています。大師はこの「一時」は具体的な歴史上の時であると言われるのです。

仏まさに説法せんとし、まず時処^{じじょ}に託^{たく}したもう

と述べておられます。お釈迦様は説法される時、まず時と処に託して話されるのであるということ。考えてみればそうですね。お釈迦様に限らず私たちでも話をするときには必ず相手がいるはずであり、そのときにはおのずから時と場所が決まっています。お釈迦様といえども誰もいないところで一人で説法するわけにはいきません。

かならず因縁^{いんねん}によるをもつて（中略）時処を待ちたもう

そうするとこの「一時」はお釈迦様が説法する因縁が熟したことを示しています。つづいて善導大師は

洪鐘^{こうしゅう}響くといえども、かならず扣^{たた}くを待つてまさに鳴^なる

と言われています。どんなに大きく立派な鐘といつてもただそれだけでは音はでない、誰かに叩^{たた}かれて初めて鳴るということ。これは当たり前のことのようにですが、お釈迦様がどれほどすばらしい教えを持っておられてもそれを誰かに請われなければ説くことができせん。それで先ほど「時処に託す」とありましたが、それはまかせるより他にない、いいかえたらお釈迦様は誰かが鐘を叩くのを待つしかないということ。ではここで鐘を叩いたのは何かというと、「王舎城の悲劇」そのものが起こったことを指します（前号参照）。

長い間の因縁が熟し阿闍世^{あじやせ}が

提婆達多^{だいばだつた}にそそのかされて父の王に対して逆害を起こします。これによってお釈迦様はそのことで苦しむ韋提希^{いだいけ}夫人に苦悩を除く教えを説くことができたのです。お釈迦様にすれば叩かれた時はずさず王舎城の韋提希夫人のもとへ駆けつけられました。

私たちの身のまわりを振り返ってみて、大人の不祥事や青少年の犯罪など、あちらからもこちらからも鐘を叩きつづけている音が聞こえるのではないでしょう。今、このような濁った世界から目をそらさず、これこそが浄土の鐘を叩いているのだと受け取って、私たちが教えを聞いて自らの生活を見直すときが来たのでありましょう。



【おたより】

湖北のご旧跡を訪ねて

伏見区 谷田 松吉

初めて「^{じゆうべい}同朋の集い」に参加させて頂きました。天候に恵まれ、九十名ほどで、京都東インターから長浜インターまで約一時間四十分余りで近江の里長浜市内、目的地五村別院に到着いたしました。さらに真宗大谷派長浜別院大通寺に参拝、ここは安土桃山時代の建築様式を伝える大谷派の別院です。伏見城の遺構と伝わる大広間、円山応挙や狩野山楽らの襖絵などの見所多く、又御坊表参道商店街を散策させて頂きました。

私も近江出身ですが、深い歴史に見るもの聞くもの大変感動いたしました。心安らぐ一日を楽しく過ごさせていだきまして感謝申し上げます。

機会があれば皆様方も一度お訪ねになられてはいかがですか。



【京都教区児童大会に参加して】

この夏、京都教区で児童大会の五十回を記念して隠岐の島で『いのち』をテーマに子供の集いが開かれました。瑞蓮寺土曜学校から児童七名保護者二名参加しました。

バスで四時間、フェリーで四時間という長い道中ですが次々とあらわれる島々を眺めたり、フェリーで新しく出来たお友達と飽きることなく何十回とかくれんぼをする子供たちを見守っているうちに隠岐に到着しました。

きれいな海、鮮やかな緑、おいしい空気、プラネタリウムのような夜空、大自然の中で身も心ものびのびとしていのちがよみがえったような気持ちがありました。

次の日は、朝から地引網をし、午後にはバーベキュー、夜はキャンプファイヤーをしました。いろいろな活動を通して滋賀県や隠岐の島の子と仲良くなつて、三日目の朝食の時には、いつも遊んでいる子同士といつても良いくらいの絆ができていました。

二泊三日と短い時間でしたが、自然にあふれた中で過ごす、日頃いかに私は人間性を見失って生活しているか考えさせられます。

『いのち』がテーマの集いでしたが、私としては大自然の中でなく京都に帰つてからも人間性を見失わないような生活を送ってゆきたいと思えますし、きつとどこであろうと地に足のついた生活が送れるはずだと思います。 坊守



【お知らせ】

お磨きのご案内

九月 十八日(火) 午前九時より
十一月 七日(水) 午前九時より
十二月二十一日(金) 午前九時より
本堂の仏具のお磨きをいたします。



彼岸のご案内

九月二十三日(祝) 午後二時より
お彼岸のお勤めをいたします。

法話 住職

講題 「今、いのちがあなたを生き
ている」(本山御遠忌テーマ)について

報恩講のご案内

十一月 十一日(日) 午後一時半より
報恩講のお勤めをいたします。
あわせて前任職の三回忌法要を勤
めます。

法話 近藤辰雄師(京都市正善寺住職)
講題 未定

【曾我先生の言葉】

わたしはこのとおり、どうしてみよう
もない者である。しかし、そのどうし
てみようもないこの自分のために、仏
法があった。

掲示板の言葉を考えるため、曾我量深
先生の語録をパラパラとめくっていた
ら右の言葉が目飛び込んできた。「わ
たしはこのとおり、どうしてみようもな
い者である」という言葉にまぎびくり
した。曾我量深といえば明治、大正、昭
和にかけて真宗教学の第一人者であり
大谷大学の学長を務めた大先生である
のに何のてらいもなくこうおっしゃる
のである。このような身が引き締まる言
葉に出会うことは大切なことである。

その言葉を「名号」といいます。

「しかし、そのどうしてみようもない
この自分のために、仏法があった。」私
にはどう転んでもこのような言葉は出
てこない。しかし、幸いに曾我先生がこ
のように言ってくださった言葉に出会
えたおかげで曾我先生が感じたよろこ
びを私もまたいただくことができます。

【編集後記】

昨今、耳を疑いたくなるような事件が
次々と起こります。この科学文明の進んだ
社会になぜ人間は墮落していくのかと悲
しくなります。今こそ私は宗教の大切さを
思います。私の子供時代には朝に夕に父母
の、お仏壇に手を合わせ後姿を見ておりま
す。貧しくとも仏様に見守られている。人
の道はずれてはならない。即ち道徳とい
うものを教えられ育っております。現世こ
そ宗教の必要さを見直すときだと考えま
す。

さて、私ごとですが常々難しい漢字の並
ぶ經典に何が説かれているのか解読でき
たらどんなにありがたいだろうと思っ
ておりましたら、ご住職様が求道会を開かれ
まして喜んで参加致しました。勉強会は面
白く又難しく、私の老化した頭では消化不
良をおこしておりますが、七十年生きてき
た解釈で呑み込んでおります。毎度の坊守
様の暖かい茶菓のご接待には、ただ頭が下
がります。

皆様もどうぞご参加くださいませ。

藤島 宣子